

小学5年2組 外国語活動学習指導案

指導者 小学校 加藤 君 江
中学校 鎌田 真由美

【本時でめざす子どもの姿】

課題意識や相手意識を明確にもち、教科や松江の場所の英語での言い方を知ろうとする姿

【具体的な手立て】

中学校教員と一緒に授業を行ったり、中学校生徒のビデオレターを見る活動を行うことで、課題意識や相手意識を明確にもち、積極的に伝えようとする意欲を高める。

- 1 単元名 いいが～松江って！こんな時間割いかが？
— Hi, friends! Lesson 8 I study Japanese. —

2 題材のねらい

何年か後に行く中学校の時間割や、世界の時間割を知ること、多様な暮らしや文化があることに気付く。また、自分の考えた時間割を作成する際、総合的な学習の時間に行っている松江旅行の時間割を入れることで、積極的に伝え合おうとする態度を身につける。

3 授業の構想

(1) 以下に示すふりかえりは、5年生1学期末の外国の方との交流の後に振り返ったものである。

わたしは初めて外国の方と会いました。わたしが一番心に思ったことは、言葉は通じなくても、表現や気持ちで伝えるということです。外国の方は、日本語は通じないので、伝えるのは難しかったと思いますが、ジェスチャーを取り入れながらしてくださったのでとてもわかりやすかったです。わたしは、言葉だけでは通じなくても、ジェスチャーや気持ちで伝えられることがわかったので、良い授業になりました。(児童A)

外国の方との交流を通して、子どもたちは、伝えようとするためには言葉や表情、ジェスチャーなど様々な方法を駆使することの大切さや、世界のたくさんの人と英語という言葉を使って伝える楽しさを体感している。そして片言の英語しか伝えられないもどかしさや、もっと英語を使って伝えたいという願いをもっている。このように、子どもが主体的に英語を学ぼうとする思いにするためには、願いや疑問を抱くことができるような課題や題材との出会いが必要である。

本学級の子どもたちは、3年生の時より年間17時間の外国語活動を行っている。1単元3時間から4時間の単元を組み、慣れ親しんだ英語の語彙を使って単元の終末にはコミュニケーション活動を行うタスク活動を設定してきた。5年生になり、外国語活動で使用する“Hi, friends! 1”のテキストを行うまでに身近な色や形、食べ物を題材にして無理なく英語を使えるように語彙を意識しながら活動を設定した。また単元の目標に応じて、外国の方や、下学年との交流の相手意識をもつための場面設定してきた。その結果、相手が誰であっても自信をもって英語を発話したり、英語を使って相手に伝えようとする姿が見られる。これは、3、4年生から外国語活動を行ってきた成果でもあるといえる。今回は伝える相手を初めて中学生に設定して行

う。「中学生に伝えたい。」と思えるような1時間目の導入を行いたい。

(2) 本単元は“Hi, friends! 1”のテキスト“Lesson 8 I study Japanese.”～夢の時間割～をアレンジしたものである。“Hi, friends! 1”のテキスト“Lesson 8 I study Japanese.”では、教科を自由に入れ替えて夢の時間割を作成し、友だちに紹介するという活動であるが、子どもが主体的に英語を学ぶためには、願いや疑問を抱くことができるような課題や教材の出会いを大切にしたいと考えている。そこで本単元の1時間目と5時間目は中学校教員と行う。特に導入時は中学校の教員が中学生のビデオレターをもって来るという設定を行い。中学校教員の英語と、3月末に卒業した先輩中学生の英語のクイズに答えながら、教科の英語での言い方を知っていく活動を行う。この活動を通して、小学校の子どもが「自分も中学生みたいに英語を話してみたい」という願いを抱くことや、「中学校で本格的に英語を学習して、言いたいことを言えるようになる」と、より主体的に学習する気持ちを引き出していきたい。また、やがて行くであろう中学校の教員と一種に授業をすることは、意欲が高まるであろう。さらに、課題意識をもたせる工夫として、中学生のビデオメッセージの中で「松江旅行」について教えてほしいというメッセージを入れる。自分たちは中学校の学校生活を紹介するかわりに、自由に計画し行っている「松江旅行」をどのように組み立てたのか教えてほしいという設定を行い、課題意識をもたせる。この単元では、曜日と教科の語彙を使って“I study ~ on Monday.”と紹介する。そのため3日間のうち1日を「松江旅行」の時間割にし、他の2日間は自由に教科で作成する。総合的な学習の時間に行っている「松江旅行」はグループでテーマを決めてまる1日自由にプランを立て、子どもたちの力で松江の見どころを見学してまわるという活動である。お昼ご飯も移動手段も自由に計画する。教科も自由にして、1日は自由に松江を旅行するというまさしく「夢の時間割」である。このように他教科で学習した事と関連させながら行うことで、言ってみたい、伝えたいという思いを膨らませていきたい。

このように課題意識と相手意識を明確にした単元の導入を行うことで、中学校の生徒に伝えるという相手意識と、オリジナルな時間割を紹介するという課題意識をもちながら単元を通して主体的に追求していく姿が現れるようにしたい。また、中学校生徒は伝える相手が小学校児童ということで、伝える方法や英語の精選等「相手意識」をもち、あと1年後の中学校の生活について知らせる「課題意識」をもたせ、小学校児童に伝えるためにどうしたらよいのか主体的に追求する姿を求めたい。

小学校外国語活動と中学校英語科の連携には三つの要素が必要であると言われている。「目標の一貫性」「カリキュラムの系統性」「指導法の連続性」である。本単元で言う「主体的に学ぶ」という目標の一貫性である。そしてカリキュラムの系統性においては、今回の「時間割」の単元を同時に行う事が挙げられる。この「時間割」の単元は小学校でも、中学校でも行う単元である。同じ時期に設定し、系統性をもたせる。その系統性については、小学校と中学校ではどのような違いがあるか指導者が明確にしておくことが大切である。指導法の連続性についてはビデオを使って小学校児童があこがれるような設定や、中学校へ行ったらあのような姿になるのだという見通しをもたせること、などが挙げられる。中学校教員と小学校教員と一緒に授業を行うことにより、小学校外国語活動が中学校英語へどのようにつながっていくのか、教師自身が指導方法を工夫しながら行う取り組みこそが、円滑な外国語活動から教科へ繋がる第一歩と考える。今回の単元の構想は、小中連携を視野に入れながら取り組む活動を考えてみた。

4 展開計画（全5時間 本時1/4）

時	主な学習と具体的な学習内容	◇追求する子どもの姿
1 本時	<p>○中学校の教科と小学校の教科の違いに気付き，単元の見通しをもって，教科や松江の場所を表す英語での言い方を知ろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日之歌を歌いながら曜日の英語での言い方を思い出す。 ・中学校のビデオレターを聞く。 ・カードキーワードゲームを行う。 ・マッチングゲームを行う。 	<p>◇中学生の英語を聞き，何を言っているのか聞き取る。</p> <p>◇課題を知り単元の見通しをもつ。</p> <p>◇紹介の仕方の見通しをもつ。</p> <p>◇単元の最後で紹介するための語彙を知ろうとする。</p>
2	<p>○曜日や教科，松江の場所を表す英語での言い方に慣れ親しむとともに，外国の小学校と自分たちの学校生活の共通点や相違点を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT教材から外国の時間割について知る。 ・曜日之歌を歌う。 ・“What do you study?” ラッキーカードゲームをする。 ・記憶力ゲームを行う。 	<p>◇様々な国の時間割について知り，文化の違いについて知る。</p> <p>◇紹介するために必要な教科や松江の様々な場所の言い方に慣れ親しもうとする。</p>
3	<p>○時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日之歌や，教科のチャンツを行う。 ・友だちと英語のやりとりをしながら時間割を作成する。 	<p>◇紹介するために必要な時間割を作成するために英語を使ってやり取りを行おうとしている。</p>
4	<p>○積極的に時間割を伝え会おうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生と作成した時間割を伝え合う。 	<p>◇自分が紹介したい時間割を積極的に伝えようとし，中学生の時間割を聞こうとする。</p>

5 本時の学習

(1) ねらい

中学校の教科と小学校の教科の違いに気付き，単元の見通しをもって，教科や松江の場所を表す英語での言い方を知る。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
1. 挨拶をして，曜日之歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌いながら曜日の言い方を思い出す。
2. 今日の小学校の時間割，中学校の時間割を指導者が英語で話す活動を行うことで，時間割の学習を行う単元であることを知る。そ	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終末に向けての活動のめあてを子どもの思いに沿ってつくり，共有すること

<p>して中学生のビデオレターを見ながらどんな教科があるのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の英語での言い方について知る。 <p>3. 松江旅行の時間割を作成し、中学生と時間割の交流を行うことについて知り、活動の見通しをたてる。</p>	<p>で単元の見通しと活動の原動力へとつなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識・相手意識を明確にもち、中学生に伝えるために何が必要なのか一緒に考えていく。 ・見通しをもち、そのために教科の英語での言い方を知っていきこうとする目的意識を確認しながら行う事で、単元の終末が明確になり課題意識が生まれる。
<p>教科や松江の場所を表す英語での言い方を知ろう。</p>	
<p>4. 教科や松江の場所を表す英語での言い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生のビデオの内容と関連させながら中学校教員と小学校教員の会話の内容から教科の言い方を確認していく。 <p>5. カードキーワードゲームを行う。</p> <p>6. マッチングゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチングゲームを行うことで最後の単元の紹介仕方を知る。 ・マッチングしたカードをいくつか残して、紹介する。 <p>7. 本時のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日、中学生のビデオを見て、中学生がとても上手に英語を話したのであんな姿になりたいです。 ・最後に時間割を紹介するので、教科や松江の場所の言い方が言えるようになりたいです。 ・中学校の先生とやってみて発音がきれいなのでびっくりしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の英語によるビデオの内容を見たり、聞いたりすることで、小学校のさらに向こうにある中学校の姿の見通しをもつ。 ・今までにインプットしているであろう身近な物の英語を使いながら教科や松江の場所を表す言い方を引き出していく。 ・ヒントを出しながらキーワードゲームを行うことでしっかり聞くようにする。 ・中学校教員と活動を行うことで意欲を高める。 ・指導者がゲームでできた表を紹介することで、最後にどのような紹介をしたらよいかイメージをもたせる。 <div data-bbox="820 1317 1406 1615" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点（気付き・慣れ親しみ） —</p> <p>中学校の教科と小学校の教科の違いに気付き、単元の見通しをもって、教科や松江の場所を表す英語での言い方を知ろうとしたか。</p> <p>【評価方法 発言・行動観察・ふりかえりレポート】</p> </div>

